

女子バレーボールのチームづくりについて

Making of woman volleyball team

1K04B114-7

末松 智紗

指導教員

主査 寒川恒夫先生

副査 矢島忠明先生

緒言

バレーボールは今では極当たり前のように多くの人に親しまれているスポーツとなっているが、昔はコートの中に 16 人入って競技していたことや今でいう編み目状のネットではなく単なる一本の紐で行われていたなど、今日のバレーボールに至るまでに様々な変遷を辿ってきた。世界のバレーボールの経緯を調べたところ様々なバレースタイルが生み出されてきたことを知り、世界各国のバレーボールの歴史を知ることが日本と他国のバレーボールをあらゆる面で比較することが出来る上それぞれの時代に見合ったチーム構成についても深く理解することが出来た。また、日本のバレーボールの歴史を辿る中で早稲田大学バレーボール部が日本のバレー界に偉大なる実績と貢献を成していたことということも明らかになった。私自身が長年に渡って継続して行ってきたバレーボールが発祥でもあるこの早稲田大学で現在行っているということが何よりも素晴らしい巡り合わせであると感じると共に、私が在学してきた 2004 年度のチームから現在に至るまでの早稲田大学女子バレーボール部の実態を調査し、女子のバレーボールチームをつくるためのコーチングシステムを研究した。そして、私自身の夢でもありこれからの近い将来で女子バレーボールチームを率いるに至り、チームづくりをどのようにして行い、指導者としてどうあるべきか、また、選手をどのように育てるべきなのかということ、2004 年度から 2007 年度までの早稲田大学女子バレーボール部のチームを比較参考にし、チームづくりを行う中で何に重点を置き、どのようなチーム構成を行うことが勝利に導かれやすいのかを仮説を立てる中で分析した。これを本研究の目的とする。

第一章

バレーボールのこれまでの歴史を調べる中で、当初はどのようにしてバレーボールが行われ、いつ頃になって日本に普及し始めたのか歴史を辿った。その中で、早稲田大学バレーボール部が日本の 6 人制バレーボール普及に大きな貢献を成したことを知った。そこで、早稲田大学バレーボール部の歴史と

2004 年から 2007 年までの 4 年間の女子バレーボール部のチーム実態を調査した。その結果、その年の指導者や選手の状態によってチームの特徴が現れチーム運営状況やチーム構成が様々であることが明らかとなった。

第二章

この論文の主であるチームづくりをする際に必要となってくる様々な条件を、チームとして、指導者として、選手としての 3 つを分析した。それぞれの立場に応じ必要とされる要素は異なるが、どれもチームの運営を円滑に図るために欠かすことの出来ない重要な役割を果たしている。

第三章

チーム内での役割設定について述べた。チームの中心人物になる人間とそれに付いていくフォロアー的役割な人間を指導者は見極めて役職に就かせる必要がある。また、ユニフォームを着ることが出来るレギュラー 12 名の選抜方法とコートに立って試合を行うスターティングメンバーを如何に選び抜くかということも考察を立てて分析した。

総括

チームづくりに必要な条件では、指導対象、指導環境、指導者の 3 つ条件が最も重要であり、選手に必要な条件では、体格・体力・精神力・技術力・経験の 5 つが最低条件であるということに結論付いた。しかし、これらの条件は監督の能力によって善し悪しが決まることが明らかとなった。監督に必要な条件には、人間性・根性・指導力・政治力・経験の 5 つの条件や、その他、人を見抜く力やコミュニケーション能力がある。チームづくりに必要となる指導対象・指導環境・指導者の 3 つの設定を監督の政治力で満たし、選手に必要な体力・精神力・技術力・経験は監督の指導力で培わすことで条件を達成することができる。これらのことから、チームをつくる中で最も影響力のあるものは指導者の能力であることがいえる。